友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽7の10
TEL (94) 2801
編集・発行人　水谷善
定価　1部 10円

一面　第一回全国大会要項
二面　基地の街を訪ねて
三面　友愛論壇・文藝
四面　会活動・解説

第一回全國大会召集

五月四日より三日間

本会結成一周年を期し、広く全国各地に散在する会員を一堂に結集し、より強力な運動展開を計るため、かねて第一回全国大会を東京に召集すべく準備を進めていたが、さる二月十四日準備会打合せ会を、続いて二月二十二日第一回準備委員会を正式に開催、大会要項等を別項の如く決、その具体的実施要項の作製に入った。

第一回全国大会を東京に召集するに当たって、本年初頭から全国に呼びかけていた組織拡大並びに準備運動の協議に当ったところが多大であるため、二月中旬までは、何ら具体的進展をみなかったのであるが、さる二月十四日一応組織拡大並びに準備運動の成果が実まったので、これに基き二月十四日、ここに全国大会結成元の第一歩がふみ出されたわけである。

準備委員会設置までの経過は、先号において既報した如く、委員会準備会は本部役員・幹事及びそれらの推ならんだる地方・学校代表者等にすることとし二月四日その打合せ会を開催、種々討議の結果、準備委員の委しくを本部案の通に決定、同時に準備委員会設置の件を進めることとなった。以来、準備委員候補者と連絡を続け二月二十二日の幹事会において、全国大会準備委員会の正式設置を決め別項の如くその委員も正式に委しくした。

また全国大会開催要項も別編の通り二月二十二日決定をみたが、本会における全国大会は第一回であり、大会成立の要件、特に代表者決定等については、慎重討議を必要とされるため多数意見を総合検討の結果結論へみちびかれたものである。

即ち、今回の大会はあくまでも全国に散在する会員を広く集めこれを契機とし、全会員の意志を強力に社会に反映させ、併せて今後の活動を統一的に全国に展開することにあり、今後における会活動の道標となるべきもので具体的な大会要項の内容も単なる定期大会的なものとは異った意味において作製に着手されている。会議諸君は充分このことを深く銘記し、第一回全国大会新結に全力を注ぐことを切望する。」

全國大會に結集せよ！

友愛青年同志会第一回全国大会要項

一、会　期
昭和二十九年五月四日、五日、六日（三日間）
大会……五月四日、五日
記念講演会……五月六日

一、会　場
大会……東京都千代田区九段、全国都市連合
講演会……
東京都千代田区神田、共立講堂

一、参加資格
1、大会一カ月前の正式本部登録会員であること
2、各地域・学校の代表者で本部において確認したもの

一、代表者数
正代表……一名
副代表……一名
オブザーバー……会員の場合は制限なしなお代表者は特に年齢制限を定めないが、青年の代表となりうるもの

一、提出議案
1、本部及び各地域・学校提出の二つに分つ
2、提出期限
本部……三月末日
各地域・学校……四月十日

一、内　容
懇会・分科会・研究会・座談会・懇親会・記念講演会

大会準備委員決る

—◇—

第一回全国大会準備委員は去る二月二十二日本部において左記の方々を正式に委しよく決定をみた。

浅野　好胤　井部　旭
石川　京子　川手止一郎
坂場　義保　佐藤　栄志
佐藤かつ子　斎藤千代子
佐々木修一　鬼頭　重雄
田中　英和　中本美恵子
二村　一夫　野阪　雅生
春川　満喜　渕井　豊一
深津　栄一　増田　裕次
松本　元彦　谷部　大補
涙瀬　忠　海野　照雄
北川　登　奥田　吉郎
満生雄津子　水谷　善
山口　光一　渡辺　昇
小林徳一郎　近藤　睿雄

なお準備委員は去る二月二十二日の幹事会において、全国大会準備委員会の正式設置を決め別項の如くその委員も正式に委しくした。

備委員会事務局長に渡辺昇君を選出した。また前記の準備委員に今後多少の変動はあるが、大会事務分掌を早急に決め準備委員の中よりその責任者を選出することになった。

全國四十一地域

代表者二〇〇名を予定

別項で詳報の如く、本会第一回全国大会は、来る五月四・四・六日の三日間にわたり、九段の全国都市会館並びに、共立講堂で開催することに決定した。

組織部については、各地方会員及び学生諸会員と連絡、晴れの大会に多数の代表を招集すべく、目下奔走中であり、現在までに四十一地域、二十五大学が参集の見込である。以下はその県名及び学校名数字は地域数を示す。

【地域】

北海道　二
福島県　一
新潟県　一
富山県　一
茨城県　一
岐阜県　一
栃木県　二
愛知県　一
千葉県　三
三重県　二
埼玉県　一
京都府　一
東京都　六
大阪府　四
神奈川県　二
兵庫県　二
山梨県　一
福岡県　二
静岡県　四
佐賀県　一
長野県　二

【学校数】

日大　法大　東洋大　東京大
中大　拓殖大　早大　拓大
駒大　共立大　明大　明学大
実践大　専大　三重大　阪大
大阪大　立命大　同志社大
大谷大　近大　関大　神戸大
上智大　学習院大

【写真】
大会場の全国都市会館（上）
講演会場の共立講堂（下）

会員の自覚を促す

会組織の拡大にしたがって、純粋な制保持の問題は当然に問題となるものであるが、先に決定をみた本会組織綱領第方針の審議にあたってもその点を慎重に統制保持に関する一項目をもうけ入れるところで、以来その徹底を期するため本部においても種々討議を重ねてきたが、第一回の全国大会召集をひかえ特にこの問題に深度化してきた。そこで去る二月二十七日常任幹事会を開き左の項目を申し合せをもうけた。

一、本会会員は会員としての自覚をあらたにし、純一ある行動をとること。

一、本会会員は、その行動に責任をもつてあたらなければならない。特に本部役員並に幹事の責任制は一層厳重に責任をもつてあたること。

一、その他本会会員として、その行動にいかんないよう務めなければならない。

國際政局展望

四国外相会議を衝く

ベルリン会議における、米国と英、仏両国の立場は、多くの理由によって異っていた。同じ西方陣営の内部に属つたこうした立場の相違は、明らかに東西両陣営間の緊張再開の問題につながりがある。少くとも、モロトフ外相が西方諸国が宗気後退の不安の中にあるということを察知して、約八億人の共産圏の人民は、資本主義国との道商を閉鎖していると述べた事は英国と仏国をして、微少な心理状態の中に追いこんだことは明らかであろう。

八億人の顧客は、西欧諸国にとって決して見のがし得べきものではない。モロトフ外相は、八億人のうち五億人は今日四方諸国から孤立病患者扱いされている中国の国民であると述べて五大国会議の開催を提案した。これに対してダレス国務長官は強く反対したが、フランスとイギリスは五大国会議を後日開催することには賛成した。

インドシナの問題をかかえているフランス、在支権益をもたないはずっているイギリス、これらの立場は、ベルリン会議の空気の中で明らかに読みとることが出来ると外電は報じている。

朝鮮問題、インド支那問題、ドイツ統一問題、中共の国連加盟問題、対オーストラリア諸国問題、これらの現在世界に山積している問題は、国際政治の上に乗っているというのが現状ではないだろうか。

ベルリン会議の様な大国の外交交渉の舞台で、相互に取引されるとしても決して不思議ではない。「度個人間の商取引のように、商品の価値や、相場の変動や、支払手段の変化に応じて為される契約と同じ様に、国際問題の一つ一つが四つの国の外相の発言に集中されて火花散る。」

少くとも現在の世界においては、すべての問題が他人事ではなく、会議の内容は、その利害関係国に如何に重大な影響を及ぼす問題であっても、極めて無雑作に取扱はれている。一国の諸相問題にしても、朝鮮問題にしても、大国の諸し合いの中で、そこに住む人々の利益、不利益を始め国外視して放置されたり、決定されたりしている。日本の国際的地位も、それらのバランスの上に乗っており、国民の力などというものではどうしも出来ないところに来ているというのが現状ではないだろうか。

沖縄代表と会見

本會常任幹事ら

本会長田、渡辺、水谷の三常任幹事は、さる二月二十五日四氏を深津幹事宅に招聘し、沖縄の現況と青年の活動状況を聞く座談会を開催した。この座談会には日青協会長三宮尊徳同盟幹事渡城栄作の両氏も出席した。

この座談会記事は紙面の都合で次号に掲載する。」

復帰問題に協力を約す

日青協会長・三宮尊徳氏は先般沖縄青年運動会のあいさつにより、沖縄各地を訪問されたので特に今回の座談会に出席を願い、母座所章尚順の両氏と、ともども沖縄の現況や青年の動向等はついて語っていただいた。

なおこの座談会において沖縄の日本復帰問題についての意見の交換を行い、今後ともわれわれも日青協その他関係団体と連絡してこの問題の解決にあたることを約し、沖縄代表も現地の協力の提供を約束してこの座談会を終了した。」

直言

警察法改正

博士が感じたならばれた、トーマス・ペティ渡辺問題を始めとしてこの人名を知つたという人が多いが、国際法学の分野では国際的にその名を知られた学者であつた。一八七一年に英国で生まれ、大正十一年に来日され、その翌年以来、わが国のこの分野の人々は、殆んどといつて良いほど大なり小なりの指導を受けたといわれている。▼ふりかえつてみると、日清日露、そして第一次世界大戦とわが国は、戦時国際法の遵守国として、世界各国の賞讃の的であつた。それにもかかわらず、わが国の国力が大きくなるにつれて、満州事変から支那事変とその法遵守の程度は次第に下降を始め、南京事件や、太平洋戦争中はわが軍が南方で犯した数々の残虐事件に至つて完全に破壊されたのである。▼『国際法は小国に遵守され、大国によつてふみにじられる』という言葉がある。わが国は敗戦によつて小国に転落して、再び法の力で自国の権益を守らねばならなくなつた。アラフラ海の真珠貝問題、事ライン問題はこの典型的なものである。▼外務省はその省務を以て、ペティ博士と会見し、この問題を外務省にこのように問したことを考えあわせ、さらにわれわれは日清、日露のわが先輩の行為を顧み、この機会に深く反省したいと思う。▼警察法の改正が問題となつている。警察国家の再現を憂慮する者もあれば、双手を挙げて賛成という者もある。更に問題は重用であるともいう。然し、警察の検挙、コンクールなどというものがあつて、一等、二等と順位をつけて表彰式を行うなど、随分国民を馬鹿にした話もある。昔は警察官に『下を回いて歩くな、胸を張つて歩け』と教えたものだが、人をよけて歩くようなことのないように」と教えたそうである。このころの自分なとはまるで太鼓者みたいだという人がある。ミンシュ化警察は五年や六年で出来るものではなさそうだ。

基地の街を訪ねて

横須賀　立川

矛盾する社会面経済面

待たれる國家的解決

昨年は種々の問題をひき起して、世人の関心を集めた駐留軍基地をめぐる諸問題を、年があらたまるとともに、ようやくにして落着したかの感がある。しかし、これらの問題が除去されたわけではなく、むしろ表面化される機会を待ないだけの話で、日々遷り変る国際情勢とともに、常に新しい問題が起生されているのではないもろうか。最近の横須賀と立川の両市を編集部は訪れてみた。とうした問題の現状を把握することも本会会員にとっては決して不必要なことではないと思う。

横須賀

横須賀　―日がのしかかるように海岸に迫っている街―そして、誰でも知っている帝国海軍かつての基地である。いまや、駅頭には背の高い白人がひきも、駅前から見渡される商店の看板は、すべて横文字である。条ホ若に連って潮風が強る中、すぐ沖合にはアメリカの軍艦が悠悠相ふくんでいる。反対側には、日本の海上護衛隊のフリゲート艦とおぼし巡船五・六隻が浮横よく浮んでいる。又沖合には一万トン級の英国艦が、これはのんびりと気宿をなしている。

風紀問題

根本的解結は困難

私慾に走る業者

横須賀市警察部防犯課が国市の警の調査によると売春婦の影響に伴って発生した各種事犯の検挙数は左表の通りになっている。

（昭和二十八年）

児童福祉法違反	三四
勤令九号違反	三
外国為替管理法違反	一四九
職安法違反	一三
覚醒剤取締法違反	六
関税法違反	一三六

横須賀市警察部防犯課が国市の

特殊環境の誘因は売春婦にあるとし、その実態と取締の概況という資料を本年一月に作製している。そのあとがきの中で（前略）売春婦並に売春婦に対しては取締の強化のみでその解決が困難あるため行政当局と併せ連続取締を実施しているが売春は酒食の風俗を紊し権を無視した有為や私利私慾のみにとらわれている（後略）」と述べているが、本質的解決には触れていない。日本人業者の楽観指導如何によっては風紀問題、売春問題もある程度是正されてゆくのではなかろうか

立川

一二分されている市街

マヒしてしまった子供達

日米行政協定が調印されて新たに誕生した問題というのが流んに取り上げられた。しかし、現在ではもうそのボルは単に除去されて女の顔だけが残ったが、手を上げただけで泡り去る。

さて、売春行為・街頭客引・家屋の提供等々これら駐留軍の日常と実は密接な関係にある現状は、風紀上、青少年の教育ときりはなすことの出来ない重要な問題であることは論をまたない。二十六年市条例が実施されて以来、住宅地域との分離が除々にではあるが行われつつあるとのことであるが、来だにその影響から完全に脱し去ってはいない現状、この影響下におかれている小中学校は七校、及ぶという。最近は表面風紀売春の話合いで一般市民の風俗を乱さないための立入禁止区域が設けられているとのことであるが、本質的解決には深遠な感がある。横須賀市

はあまりいないだろう。ある者はそのまま残り、ある者は思想の媒介として使った。いかにしたら街を、子供を、青年を傷つけずに済むかということを考えず、ただいたずらに憂き、真にその既を見きわめようとはしなかった。

基地という特定の環境の中で、青年は、児童は何を考え、何を望んでいるのだろうか？青少年はわれわれが考えている程暗くもないかも知れない。またわれわれが思っている以上に悲惨なことがあるかも知れない。

市民の実情、目にうつった事柄を追いながら基地立川市を見てみたい。立川市は都心から約一時間で都心に一番近い基地である。乾き切った土埃全市行政が絶え間なく飛び、その音は耳がおかしくなる程である。しかし街の人達はそんなものにはなれ切ってたようであるが、その陰には、ある者はこんな環境の中で育まれ、ある者は自覚をもって染まらないように努力している人達も多いようである。

立川駅を境に南側は三多摩子供会等を守る会というのがあって各方面に呼びかけている。しかし、この活動は南側だけに止まっている。そして徹底的に行われた訳ではない。

立川駅を境に南側は三多摩子供会等を守る会というのがあって各方面に呼びかけている。しかし、この活動は南側だけに止まっている。そして徹底的に行われた訳ではない。

立川市は都心から約一時間で都心に一番近い基地である。乾き切った土埃全市行政が絶え間なく飛び、その音は耳がおかしくなる程である。しかし街の人達はそんなものにはなれ切ってたようであるが、その陰には、ある者はこんな環境の中で育まれ、ある者は自覚をもって染まらないように努力している人達も多いようである

友愛論壇

民主々義と友愛精神

……実践的性格の把握を……

勝村一男

一

民主々義の理念は、一般に次の二つのものが含まれている。第一はその政治形態である。第二はその政治理念である。民主々義を理解するに当っては、これら二つのものを区別して考えなければならぬ。

民主々義の基本的理念が自由と平等であることは周知の事実だ。しかし自由と平等という二つの理念は相反撞するものを含んでいるから、もし自由を絶対的な理念として主張すれば、それは弱肉強食の結果に陥って平等を否定することになり、平等を絶対化して強制すれば、本来多くの資質を持つ人間は自由にはなりえない。だから自由と平等とが民主々義の理念として同時に含まれるのは、これらの道具ともなりえないものであるからである。

二

民主々義の理念を歴史的にみると、それは先ず人間人格の解放、人権と自由の確立から始まる。しかし民主々義の本質は単に自由と権利のみで成立するものではなく同時に秩序ある健全な共同生活を前提としなければ成立し得ない。何故なら民主々義の最高理念の達成は、無秩序や混乱の支配するような社会では、およそ問題とならないからであって、それはただ法と秩序の保たれた健全な共同生活の精神的継続性とも云うべき友愛精神なるものを、ふり返ってみる必要がある。

友愛精神の要性をなしているのは、キリスト教や仏教等にみられる衆生救済の思想であると私は信ずる。しかし宗教には個を対象とした彼岸的な性格が強いのに反して、友愛精神には現世的な主張すべき民主的な性格が強い。いわばそれは宗教が理想とする王国を現実的ならしめようとする精神に外ならないもので、具体的にその内容をいえば、寛容と相互尊重を通じて、全成員の認識と共に観念を含んだ理想社会を作り上げることにあると考えられる。

友愛精神をこのようにとらえることによって、われわれが民主々義それ自体と不離の関係に立つものであることを理解できる。かかる観点からわれわれが民主々義達成のためには友愛精神に徹せねばならないが、友愛精神の具体的な在り方は、個々の理想や目的を寛容と相互尊重の精神を以て一歩一歩総体的なものに築き上げてゆくことにあると思う。（筆者は日本政治経済研究所員）

＊　＊　＊

三

今日われわれはこのような課題に直面しているが、この精神こそ、民主主義の根本的な精神なのである。このようにおいて認められるのであって、自由とは同じ自由をすべての人に平等に認めることを意味し、かくして万人が相互に尊敬し、信頼し合うことを通じて、人間による人間の支配のない社会を実現することが、民主々義の最高の目標なのである。

歴史の焦点に立て

歴史の焦点に立て……このことは、サラリーマンにも、農村の青年にも工場の退職労働者にもそして学生諸君にも足が弱くても要求する。歴史は安易なものに流れやすくなり、その結果として、腐敗堕落に政治のフハイとかオショクといった問題にも無関心になってくるからだ。（湯）

前面に出すぎた戦争反対

＝『日の果て』八木プロ作品＝

歴史の焦点に立てこと……われわれが意識して出来ることではない。しかしわれわれは常に歴史の焦点である、という意識をもやもすると失いがちである。こうしたことを今の青年たちに要求することは、あるいは困難なことかもしれない。だが、このことは、サラリーマンにも、農村の青年にも工場の退職労働者にもそして学生諸君にも足が弱くても要求する。歴史は安易なものに流れやすくなり、その結果として、腐敗堕落に政治のフハイとかオショクといった問題にも無関心になってくるからだ。（湯）

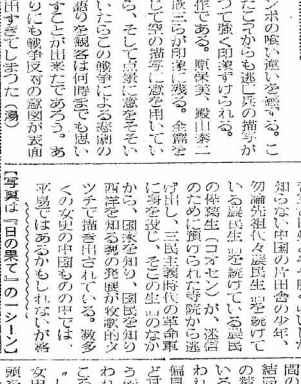
最近の文芸映画は、歴史小説が目立つてきたような気がする。それも、時代の流の中にあって流ろうされた個人の悲劇を取扱ったものが多い。そういう傾向があるのかどうかは知らないが、歴史というものが、というより歴史を考えようとする努力が社会的にあらわれてきたことは、今日の知識世相にあつて慶賀の至りといえまい。しかし、これが世の逆コース論者にその口実を与えるような結果に終らせないような努力がわれわれが望んでいるのではないか。

歴史の焦点に立つことは、われわれが意識して出来ることではない。しかしわれわれは常に歴史の焦点である、という意識をもやもすると失いがちである。こうしたことを今の青年たちに要求することは、あるいは困難なことかもしれない。だが、このことは、サラリーマンにも、農村の青年にも工場の退職労働者にもそして学生諸君にも足が弱くても要求する。歴史は安易なものに流れやすくなり、その結果として、腐敗堕落に政治のフハイとかオショクといった問題にも無関心になってくるからだ。（湯）

大平洋戦争も末期に近ずいた頃のフイリツピンの日本陸軍は、日に日に悲惨な状態に追い込まれていた、そして、その敗色は米軍のレイテ湾上陸によつて完全に決定的となつた。この頃の在比島日本軍は完全に離滅、裂、逃亡は日を追つて増加してゆく。物語りは、こうした背景の中で展開される梅崎春生の原作とはかなりかけ離れた戦争反対映画である。

見るからに悲惨な逃亡兵の行進に始り、そしてまたその行進に終つてゆく。その中で逃亡した軍医（岡田英次）を射殺すべき部隊長の命を受けた鶴田浩二の将校が俞生伍長（原保美）を道案内にて、軍医が原住民の女二人を殺する部落を訪ねる、実はこの人物のスミズミまでゆき渡り、鶴田浩二の将校は、軍医の逃亡兵の描写はこの物語の主題かと思われるほど前面に押出されている。従つて、戦争反対の意図が強すぎるあまり、主要人物の描き方にニュアンスを欠くうらみがあり、かえつて作品全体の印象を薄くしている。

原保美、殿山泰二、信欣三らが印象に残る。全篇を通じて原保美の描写に意を用いていたら、そして吉田に意をそそいでいたらこの戦争による悲劇の物語りを観客は何時までも思い返すことが出来たであろう。あまりにも戦争反対の意図が表面に出すぎてしまった（湯）



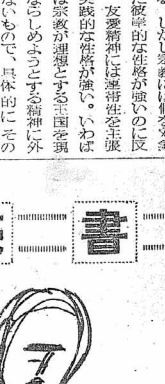
『日の果て』の一シーン

読書

格調高き文學作品

『若き革命家』

パール・バック　宮崎玉江譯



パール・バック女史については、いまさらあらためて紹介する迄もないであろう。この作品は一九三二年、女史が政会のために、少年を対象として書き下したもの。かつて同じ訳者が『若き志士の手ら』の邦題で訳出したことがあるよし。しかし、少年を対象としたものかもしれないが訳者があとがきで敢て述べるほどの必然がないぐらいすぐれた文学作品となつている。

青年と田舎と平和ぼくらしかし知らない中国の片田舎の少年、勿論先祖代々農民生活を続けている農民生活、定住続けている農民のために、育てられた寺院から逃げ出し、三民主義時代の革命軍に身を投じ、そこの生活の中から西洋を知る夢の発展が女歌舞のタッチで描き出されている。数多くの女史の中国ものの中では、平易ではあるかもしれないが格調の高さに改めて頭を下げるだけである。

蔣生少年が、何か自分は思い覚えない力で束縛されている、との自覚を持つにいたる設定は、調の高い作品という点がある。

しかし、蔣生少年が病院で紅毛人の医師に対して抱く人種的嫌悪から病が脱出して、キリスト教による国は、国家への奉仕に納得する過程の描写は、今日、原子時代に生きるわれわれにいうことを除外しても、あまりに伝道的にすぎる印象を受ける。訳者は本書のあとがきで『偏見なく本書を読むも、激動し、混乱している人間の政治や経済の領域を脱不の精神の主題が、静かに語られている。』というが、今日われわれの生く周囲は、反りに偏見がなかつたとしても、それほど目いもつてはいない。パ女史のいう英人観の本書を読んでしまえばわれわれが抱く知り足りなく感じることの製作者一同、大に張り切っている。

なお日本大学芸術学部講師の長谷川紳一氏に指導をねがうことにしており、合唱団責任者としては、早川悦君、佐藤かつ子さんがあたることになつた。

中国の当時の一般農民の生活状態を多少とも頭になければ、読者の興にピンと反応しない。また、革命軍の隊長から神を信ずるなと教え込まれて、親友法李（ファリ）の死に相通じて愛の精神に眼覚める過程は、本書の前半ほど印象が強くない。それは、女史のどの作品についても受ける印象で、登場人物の主人公が何か、『めつ』に到する描写においてそうである。本書の中では、逃亡の意が非常に多いもらく続まれる。たとえば、寺院から逃げ出した蔣生が女人の法李と逃亡を決意した際金をねらつていると、老僧が『今日は死体に頭つてくるんじゃ』という。蔣生が『誰かわしといしようなのですか、それともわ

友愛俳壇新設

友愛に俳壇を設置して欲しいとの希望は以前より強く、特に地方からの要望が多かつたが、ここに選者として、内山一草堂（国文学者）斎藤雪路（日大助教授）の両先生を迎えて、友愛俳壇を新設する運びとなつた。

俳句は人易くして極めがたいものであり、わずか十七文字に表現の差を託するので、難けつな、なかなかに作品が寡来れる。

いつに変らぬ自然や、めまぐるしい生活を通して、それを句に詠むことによつて、人生が生き生きとしてくる、広く会員の投稿を願つて止まない次第である。」

明日　毎月十五日迄
入選作は紙上に発表
送り先　事務所内友愛俳壇係

最高二万六千圓

大学授業料調べ

毎年のことであるが、入学期をひかえていつも、受験生、父兄等の頭痛の種は、授業料、受験料、入学金の問題であろう。

すでに入学の決定した大学もあるが、参考までに本年度私立大学の授業料をここに紹介しよう。

昨年に比し殆んどの大学が値上を行つているがもうこの辺が限界ではなかろうか。

日本医大	三〇〇〇〇
学習院大	二六〇〇〇
南山大	二六〇〇〇
早大理	二五〇〇〇
慶大文	二〇〇〇〇
立大理	二三〇〇〇
青山大文	二一〇〇〇
明大	二〇〇〇〇
明学大	二〇〇〇〇
東京女大	二〇〇〇〇
日大文	二〇〇〇〇

友愛の歌（四）

青沼爽壱

一　大海を蔽う戦乱の
裏ふき払い和き見よ
心をつなぐ友愛の
旗高らかにひるがえる

二　あるべき尽きぬ人の世に
国も世代も異のりもと
胸にあふるる友愛の
この叫びこそ真実（まこと）なれ

三　破邪の気運湧いみちて
若人達は集つどいより
久遠の理想友愛の
歌ともども一緒うなり

四　ひびけ平和の鐘の音
今こそわれ等高き
自由・平等・友愛の
道すじへ共に歩きゆき

一人で行くんですか？』と落着いていたずねた。先生はちょうと思案した。（中略）そして『好きなようにして行くがよい』と いうそして、彼は法李少年と托体に出かけ、革命軍に頂わつてしまう。一寸、一体和尚のトンチ問答を思い出さるような問題のやりとり。その中に蔣生少年のイメージをはつきりと読者は掴ける。

最後の章『めつ』で

『おれの心を覚ましてくれたおれたちの国がどんなものであるか（中略）を おれは考らしてくれたのだ。だがおれたちはあの人に教えられたように国に奉公はできん。おれは様子したり、戦死したりして奉公する（後略）』

先生はこうして述懐せしめているパ女史の『革命』『戦争』というものの対する考え方を如何に受取るか、ということよりも、この書は女史の文学の格調の高さを味わうべきものと思う。ただ訳文ほど、中学のニュアンスという観者の心づかいから、普通は受けない感じが見受られたこと、また誤植ではないがサカ字乱字が散見されたのは遺憾であつた。余体としては訳文は、原文の格調の高さをとにかくこれも訳出していたのではなかろうか。（H）【文芸出版社刊　二〇〇円】

☆　☆

大阪・京都等八市で懇談

関西派遣員の詳細

本会は結成以来全国的な組織をめざし、その発展を期して来たが、東日本、北陸などに比べがちだった関西の運動を促進、関西万国に結束おくことを、強力な援助を結集するため綿密な如く常任委員寺北川登・奥田吉郎の両君が、友愛運動の普及と会員の獲得にあたった。

津（三重県）

労働組合の青年部を訪問、あったの早朝より北川君は会合友愛の本質に対し公開講演、伊藤君（三重大）が基礎友愛のものについて討論を交し、全国大会の詳細を早急に知らせるとの要望があった。津市と隣接する安濃郡と連絡をとりつつ、大会までに三千名を動員するとの発言があった。

八尾市（大阪府）

津市からの松田君も加わって八尾市に帰宅、児玉氏宅に児玉勤雄君、同自治会長さん、友愛会の綱領趣意目的、発足以来の詳細な経過を語り、迎元八尾市の青年の現況、青年運動の困難とはいえその重要な点を述べ、福互の連帯をはかった。

児玉君は前より本会に協力を申し出ていたが、在学中に市議に当選した程の活動家で今後の期待は大きい。

岸和田（大阪府）

日程が短いため、たずねた市議会の綱領趣意目的、発足以来の詳細な経過を語り、迎元八尾市の青年の現況、青年運動の困難とはいえその重要な点を述べ、福互の連帯をはかった。

布施（大阪府）

日程が短いため、たずねた布施市に帰り、近畿大会に参加をとり立案者三君（雄弁会幹事長）大西武君（自治会長）肥田昭君（ユネスコ委員）竹田勝君（商連）土屋吉君（自治会員）下原義哉君（体育会幹事長）の諸君と懇談、転換期にある青年生活の問題について論じ、会の学生部の現況を伝えた。さらに羅進君の適案内となり、同市の松平覚君（ユネスコ青連）を訪れたが不在、近畿に引返して安藤正雄君前大会代表委員の自宅を訪問、北川、松田、奥田、草薙君と五人が一つ炉餅を囲んで欲談した。安藤君は大谷大を通じ、また現在関西の深い仏青をとおして友愛を普及したいと語った。

大阪市

東京に次ぐ第二の都市であるだけに一日にして青年の動向を知るのは不可能に近く、また大都市の青年ほどまとまりのむずかしいので極で対策を練る。翌日津市寄り応援してくれた松田君は不在だった市議市の松平君に会合はがきを書くため早朝に大阪を発つ。

その後大病院に松原君を尋ねたが不在、止むなく北川君は足を伸して神戸市、西宮市に赴き、奥田君はとまって村上祐君（前私学連書記長）西川健君（関大渉外部長）と会合した。

友愛青年同志会に対して、会の現状分析はどうか、資本主義をどう思うか、政党との関係はどうか、青年の具体的要求をどう取上げるかの質問があり夜分まで議論を重ねた。

本年の秋から来春に大阪中島公堂において、友愛の旗じるしをあげようとの要望があった。

神戸市

寸暇を割いて長崎県に出かけた北川君は、塚原郁子さん（神戸大）と会見、全国大会に対する打合はがきを持った。

西宮市（兵庫県）

その足で西宮市に寄り、福富君と意見を交換、福富君は友愛普及に積極的にのりだすことになった。

吹田市（大阪府）

発会当時より、熱心に投書を寄せていた多田嶺君を吹田市に訪れたが不在で、留守紙をして帰った所、早速本部に通信がとどき、正式入会をした。

京都市

立命館大学に私学連事務局を訪れ委員長軍野誠男君、中川治男君（私学連組織部長）赤野理一郎君（学友会渉外部長）向井君子さんと会合をもった友愛に関しては以前より海野熊雄君（常任幹事）から説明があったので趣旨には賛同、今後の具体策を練った。

なお三月十六日の通信によると軍野誠男君を友愛青年同志会結成準備委員長とし、準備委員に中川治男君（前記）福村芝延君（元私学連書記）塚本悦雄（前立命館学生自治会長）の三名を選び活動に邁進し、金京都学生自治会のクラブ発展的解消をはかって友愛に加入させるべく懸命となっている。

軍野君は連絡のため近く上京の予定である。

連絡所　京都市下京区不明門通松原トル　電野　誠男

組織強化を計る

静岡縣沼津市

沼津地区では、青年婦人部を設置し友愛運動の意義を説いている。三浦君（産業科学研究所）が中心となり、昼働きながら、夜学に通っている内田良志君の応援をえて着々と運動をつづけている。

「大会までにグループを強化して代表を送りたい」と張っている。

静岡県三島市においては、今回新しく入会した、渡辺郁君（三島新聞社）が友愛の普及に力をそそぎ、三島地区会員の連絡を密にすべく、代表を送りたいと張っている。

三島地区会員

連絡のため上京

三島地区の連絡網強化に友愛運動の意義を説いている。

大会までに、在学の会員の協力のもとに、学生グループを結成し、代表を送る計画をたて、三月十日頃上京して、本部との連絡をとることとなった。

早急に着手

東京近縣工作

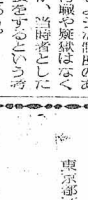
本部の地方組織強化は二月中の成果をみつつ、新たなる構想のもとに工作を急ぎ、一層発展に展開することになっている。今月は東京近郊の地区に重点を置き、本部の派遣員等によって各地区との交流を深め、来る全国大会にそなえることになった。

学生部会

卒業学生送別会

ほたるの光の歌とともに、懐しの母校を巣立ち行く卒業生と在学生との送別会は、去る三月二日、卒業の水難誌会場で開催された。過去、労苦をともにした学生部が、この日はすべてを忘れ、かくし芸に興じ今後の抱負を語ることも楽しく一日を過ごした。卒業生とともに学生ともを共にすごす、今後の強力な運動の展開を誓い会の栄ある栄光を祝福した。

白雪がいつの時から始まったか知らないが、死にたい奴は昔から多いようだ。黙って消えてしまっていいようなものだが死ぬ奴には一理屈もあるし、生きることにきゆうきゆうとなっているのを知らないのだから、生き足りて死なせたいものは他にいくらでもあるのだから、自動車が、東京に駆けつけて、めまぐるしくとも、次から次からと言うのない汚職にはかなわぬだろう。これではいつそ汚職をしないで人間をつかまえた方が早い。



題

本邦随一の高品位炭
北炭
北海道炭鉱汽船株式会社

造船疑獄

計画造船か疑獄か

解説

昭和電工事件以来ひくくなりをひそめていた、汚職疑獄の大旋風も最近になって保全、造船の関係において一大猛威を奮い、いつやむともはかりしれた感じが深い。

保全や造船が取りざたされる前ではなく、全国至るところ日雇人夫総額約一、四八五億円のうち実際に返済したのは二六億円に過ぎないといわれ、元金は返済の金利も払えぬとの悲鳴さえ聞こえるという。

この計画造船は、政府のとった海運助成方針の一環として船舶公団（二次一四次）見返資金（五次一八次）開発銀行（九次以降）等国費によって建造を行ったものであるが、船会社は国に借金していることはたしかで、当然返済すべき筋合の借りものである。しかし現在までの借入金総額約一、四八五億円のうち実際に返済したのは二六億円に過ぎないといわれ、元金は返済の金利も払えぬとの悲鳴さえ聞こえるという。

この造船疑獄はまるで海運界の縮図ともいえるほどあり世界各国とも見逃さない。造船疑獄の大旋風は、街の金融土といわれた森脇業が、日本特殊産業社長を告訴し、その背後にはこれ、その事業の自殺で、会社の事業とはまったく関係のないはずの山下汽船、日本海運から総裁五億といわれる資金を融通してもらったとの資金を融資したことがわかる。ではなんの目的でこのような多額の資金を融通してもらったとの資金を融資したことが、日産の汚職事件に出し、一連の汚職の洗い出したことによるもので、調査の進むにつれその金額もおどろくべき国民にもわかり、いまだながらその深さには驚然とさせられる。

このような、ことが、なぜなされたかを少々解明してみると、戦前の日産コンツェルンの中心であった日産自動車会社は、戦後四三年万一、世界第三位の海運王国を誇っていた日本国、戦後四三年万一にまで下がってしまったのである。そこで当然問題となってくるのが、各船会社の資金の運動である。

（A）普通会員

（1）個人会員……年額金一二〇円

（2）団体会員……一口年額金一、二〇〇円

（B）賛助会員……一口年額金五、〇〇〇円

一旦納入した会費は、いかなる事由があっても返還しない。

八、会員は本会の刊行する機関紙の配布及び各種刊行物の特典、顧問を受け、本会諸種の各種催物に参加できる様、本会の事業について、学究生活の発展その他種々の特典が与えられる。」

第三章　会員

五、本会の目的に協力するものを賛助会員とする。

六、普通会員は個人会員と団体会員とに分け、それぞれ資格について、一般部、団体部、学生部、婦人部の各部に所属し応じ定める。

七、会員はその資格に応じて左の通り会費を納入する。

（A）普通会員

（1）個人会員……年額金一二〇円

（2）団体会員……一口年額金一、二〇〇円

（B）賛助会員……一口年額金五、〇〇〇円

八、会員は本会の刊行する機関紙の配布及び各種刊行物の特典、顧問を受け、本会諸種の各種催物に参加できる様、本会の事業について、学究生活の発展その他種々の特典が与えられる。」

第三章　会員

三、本会は友愛精神を基調として青年の団結を図り、政治、経済、社会及び文化の全面に亘って公正なる識見を高めると共に、青年の学究及び社会活動を援護して共助共存の実を挙げ、健全明朗なる民主社会の実現と自主独立の文化国家の建設に邁進することを目的とする。

四、本会は前項の目的達成のため左の事業を行う。

及び友愛精神及び民主思想の普及

思想防衛と自由擁護、休戦並びに生産増強及び国土開発に関する友愛運動の推進

社会福祉と厚生活の確保を基本とする新生活運動の推進

世論調査並びに青年運動に関する資料の調査

青年の学究及び社会活動に対する援護協力

国際親善に資する青年運動

公演会、公聴会、討論会、座談会その他各種懇話会

機関紙及び各種刊物の編集刊行

その他本会の目的達成のために必要なる事業

第二章　目的及び事業

三、本会は友愛精神を基調として青年の団結を図り、政治、経済、社会及び文化の全面に亘って公正なる識見を高めると共に、青年の学究及び社会活動を援護して共助共存の実を挙げ、健全明朗なる民主社会の実現と自主独立の文化国家の建設に邁進することを目的とする。

四、本会は前項の目的達成のため左の事業を行う。

及び友愛精神及び民主思想の普及

思想防衛と自由擁護、休戦並びに生産増強及び国土開発に関する友愛運動の推進

社会福祉と厚生活の確保を基本とする新生活運動の推進

世論調査並びに青年運動に関する資料の調査

青年の学究及び社会活動に対する援護協力

国際親善に資する青年運動

公演会、公聴会、討論会、座談会その他各種懇話会

機関紙及び各種刊物の編集刊行

その他本会の目的達成のために必要なる事業

第一章　総則

一、本会は友愛青年同志会と称する。

二、本会は本部を東京都に置く。

本会は必要に応じ、地域別又は職別に支部を設けることができる。支部に関する細則は別に定める。

山友会春のプラン

自然の歡びを

—思い出を残して渉り—

自田のクラブ発展的解消をはかって友愛に加入させべく懸命となっている。

軍野君は連絡のため近く上京の予定である。

連絡所　京都市下京区不明門通松原トル　電野　誠男

—思い出を残して渉り—

幾所について一つひとつの回想を持つがいい。それは他から奪い取ることなしに若が強の唯一の方法なのだから。

自然はいつも生々として若きにあふれ、先にみちている。それは常に周囲をはげまし元気づけ、又やさしくなぐさめてくれる。人界を遠く離れている山中にも、自然は美しく輝いて、自然は若い者人を待っている。自然は永遠に若く、清く、かつ健康である。自然は人間の友であり、その師でもある。自然は常に慰められ離れたりすると、人間は何時しかたらくれる。自然に親しむ事によって永遠に若さと希望と愛の心とを失わないようにしたいものである。

若さは若い。若さはこうした大自然の中にあって心も身体も健康にそなえていこう。

新しい光の美しい旗が流れ希望の年一九五四年の到来。そして弥生三月も吾々若人の歓と笑にやつて来ました。この飛躍の年にあたり、吾々友愛山友会も益々向心相待り今年こそ躍進の年である様に中川治男君（前記）福村芝延君（元私学連書記）塚本悦雄（前立命館学生自治会長）の三名を選び活動に邁進し、金京都学生自治会員一同努力致して参ります。

月日のプランを左記の如く予定し、三月中旬、児玉氏宅に児玉勤雄君、同自治会長さん、友愛会の綱領趣意目的、発足以来の詳細な経過を語り、迎元八尾市の青年の現況、青年運動の困難とはいえその重要な点を述べ、福互の連帯をはかった。

児玉君は前より本会に協力を申し出ていたが、在学中に市議に当選した程の活動家で今後の期待は大きい。

岸和田（大阪府）

日程が短いため、たずねた市議会の綱領趣意目的、発足以来の詳細な経過を語り、迎元八尾市の青年の現況、青年運動の困難とはいえその重要な点を述べ、福互の連帯をはかった。

布施（大阪府）

日程が短いため、たずねた布施市に帰り、近畿大会に参加をとり立案者三君（雄弁会幹事長）大西武君（自治会長）肥田昭君（ユネスコ委員）竹田勝君（商連）土屋吉君（自治会員）下原義哉君（体育会幹事長）の諸君と懇談、転換期にある青年生活の問題について論じ、会の学生部の現況を伝えた。さらに羅進君の適案内となり、同市の松平覚君（ユネスコ青連）を訪れたが不在、近畿に引返して安藤正雄君前大会代表委員の自宅を訪問、北川、松田、奥田、草薙君と五人が一つ炉餅を囲んで欲談した。安藤君は大谷大を通じ、また現在関西の深い仏青をとおして友愛を普及したいと語った。

大阪市

東京に次ぐ第二の都市であるだけに一日にして青年の動向を知るのは不可能に近く、また大都市の青年ほどまとまりのむずかしいので極で対策を練る。翌日津市寄り応援してくれた松田君は不在だった市議市の松平君に会合はがきを書くため早朝に大阪を発つ。

その後大病院に松原君を尋ねたが不在、止むなく北川君は足を伸して神戸市、西宮市に赴き、奥田君はとまって村上祐君（前私学連書記長）西川健君（関大渉外部長）と会合した。

友愛青年同志会に対して、会の現況分析はどうか、資本主義をどう思うか、政党との関係はどうか、青年の具体的要求をどう取上げるかの質問があり夜分まで議論を重ねた。

本年の秋から来春に大阪中島公堂において、友愛の旗じるしをあげようとの要望があった。

神戸市

寸暇を割いて長崎県に出かけた北川君は、塚原郁子さん（神戸大）と会見、全国大会に対する打合はがきを持った。

西宮市（兵庫県）

その足で西宮市に寄り、福富君と意見を交換、福富君は友愛普及に積極的にのりだすことになった。

吹田市（大阪府）

発会当時より、熱心に投書を寄せていた多田嶺君を吹田市に訪れたが不在で、留守紙をして帰った所、早速本部に通信がとどき、正式入会をした。

京都市

立命館大学に私学連事務局を訪れ委員長軍野誠男君、中川治男君（私学連組織部長）赤野理一郎君（学友会渉外部長）向井君子さんと会合をもった友愛に関しては以前より海野熊雄君（常任幹事）から説明があったので趣旨には賛同、今後の具体策を練った。

なお三月十六日の通信によると軍野誠男君を友愛青年同志会結成準備委員長とし、準備委員